

「シンガポール派遣 参加報告書」

京都大学文学部哲学専修4年 花岡佑果

①学習成果

これまで金銭面や手続きの煩わしさそして治安への懸念から、海外に憧れを持ちつつも避けていたところがありました。しかしながら、シンガポール派遣では現地に慣れた引率の先輩に加え、研究室の知り合いたちがいたので海外渡航ほぼ初心者の私も安心してプログラムに臨めました。渡航費がKUASUから出されたことで金銭面の不安もなかったです。不安だった英会話も、完璧でなくても通じることが分かり、派遣の途中から現地の学生や街の人々とも自分から進んで会話ができるようになりました。実際、バレンタインデーには寮から少し歩いたところにある学生たちが集う建物のなかで行われていたイベントを同行者の一人と発見し、工作体験などをしてチョコレートや果物をもらいました。英語での会話を臆することなくできたのはとてもうれしかったです。

Yale NUSに関して、施設がとてもきれいで学生の活気が見て取れました。自学自習にも、集団で勉強会をするにも、また歓談や息抜きのためにも、あらゆる場面に合った素晴らしい空間が用意されていました。観光地だけでなくこのような教育の空間も充実していることに驚くとともに、「いままさに伸びている国だ」という実感をおぼえました。プログラムが13日間もあるので現地の様子を深く味わうことができたように思います。

このように海外初心者が海外への漠然とした不安を解消するにはぴったりのプログラムではないかと思えます。私自身、また近いうちにどこかの国に行きたいという気持ちが帰国したそばから湧いています。

②海外での経験

Yale NUSの哲学科の学生が様々なところに案内してくれました。彼らと沢山の時間を共に過ごすなかで、文化の違いや共通点を知ることができました。学生の一人に、私が研究している「哲学カフェ」をシンガポールでかつて実際に営んでいた方がおり、それについて話をすることができたのは今回の派遣において特に有益な経験でした。その方とは今後もメールなどで交流を続けていこうと思っています。

またもう一つ印象深い経験は、同行者の一人が派遣途中で体調を崩し、付き添いで病院に行ったことでした。行きは知らない土地で皆と別行動で病人を連れていくことが些か不安でしたが、現地には加入していた保険と提携している病院が沢山あり、キャッシュレスで治療をしてもらえたのでかなり助かりました。今となっては貴重な経験です。

③プログラム内容

アリストテレスやヒュームといった古典に加え、心の哲学のように現代的な分野の授業も行われ幅広く学べました。初回は緊張しましたが、回を重ねるごとに授業にも慣れ質問もすることができました。内容の難しい授業を英語で理解するのはなかなか困難ではありましたが、かえって集中して内容に向き合えたので良かったと思います。

④進路への影響について

派遣を通して、英語に対する向上心が格段に増しました。学部生の間にもう何回か海外渡航を経験して、不安なく英語を話せるように、またメール等文通にも不自由しないような英語力を身につけたいです。またこのようなプログラムがあればぜひ参加したいと思います。